

## ちよっとひどくない？ 新学習指導要領 & 杉並の教育

2008.8.1. 杉並区立産業商工会館

### 1. 開会挨拶 より

今の情勢の中で教科書問題だけでは解決できない問題があり、戦後教育基本法の廃止を目指した攻撃の最先端にある総合的なものが杉並に集中してきているのだと思います。今日は新教育基本法の積極的な推進役としての新学習指導要領について、藤田さんのご講演、また杉並区内の様々な教育問題について区内の方からお話をしてもらいます。

### 2. 新学習指導要領の問題点と21世紀の教育課題

国際基督教大学教授 藤田英典さん

(レジュメ参照)

\*記録していて、印象的だった話

- (1)新教育基本法が、国民・保護者が従わなければならない法律「国民命令規範」になったということ。
- (2)『正しい』が多すぎる。行政が決める『正しい理解』に従わせる意図が見え見えである事！  
(あのイギリスでさえ『正しい理解をするための力をつける』としている)
- (3)新学習指導要領のパブリックコメント後に付け加えられたものが、子どもたちや教師をいかに具体的に締め付けようとしているかがわかった。
- (4)『習熟度別学習』について  
私自身が『特別支援教育』の学習指導員として経験していることから「習熟度別学習は子どもの学力を固定化する」という話にとても共感できました。
- (5)最後に、教育:「未完のプロジェクト」~教育政策・学校運営・教育実践の指針のところが大切だと思った。  
特に

すべての子どもが尊厳的存在 & 有為な人材

子どもの夢と誇りを大切にしない教育は失敗する。

支え続けるのは教職員と地域の信頼・支援・協力

教職員の夢と誇りを大切にしない社会の教育は失敗する。

の部分に強く共感した。

(休憩)

### 3. 質疑より

(1)Q, 学習指導要領改訂の危険性とは?

A, (藤田) 一言で言うのは難しいが、25年の改革の逆方向へのかじ取りをしたということです。

教職員への締め付け・強制の中で学力重視の方向へ舵取りをするようになったため、学力競争が激化し学校間隔差がもっと激しくなっていき、これらが相乗作用を起こしていく。

国家的なイデオロギー的な教育が強調される。戦前のようになっていく危険性が大きい。教職員の自由闊達さが必要な教育に反するものであると思う。

(2)Q、「よみ・かき・そろばん」が大切と言われるが、「はなす・きく」はどうなのか?

A, (藤田)「よみ・かき」の中には「はなす・きく」がもともと入っており、近代的な学校教育の中では活字文化をもとにした近代的な知的内容の発展があった。現在社会的な必要からことさら「話す・聞く」を言わざるを得ない状況にはなっていると思う。

(3)Q, 「日の丸・君が代」の分限処分についてどう考えるか?

A,(藤田)「よりました」ということは言えるかもしれないが、この件に関しては材料も持たないのでコメントは控えたい。

(4)Q,「努力と称賛で学校を改めていく」ということに対しては輪切り選抜が中心になっている現在、疑問を感じるがどうか？

A(藤田)高校以上の段階で差が出るのは当然だと思う。高校では多子化に輪切りでの選抜がされているが、大学ではどこでも差のない教育がされている。それ以上は学校のせいではないと言える。

(5)Q,杉並の「師範館」は、大分でやられている「口利き」の最たるものではないかと思うがいかが？

A,(藤田)私もチラリとそのように思うことがあった。大分の件は透明性・公平性が必要であり、最終的には市民を入れることだと思います。「師範館」は問題があると思う。教育方針が偏っていると思うし公的にやっているものに偏りがあってはいけないと思う。

## 5、リレートーク

『和田中のPTA解体問題』についてのPTAアピール」報告、「和田中地域本部」の問題、「教科書採択問題について杉教組・都教組での教職員アンケート結果」、「教科書比較・小学校算数」、「教科書採択について」などについて、市民・保護者3名、教員2名から報告があった。

「和田中『地域本部』では、2000万円程度の金が支出報告もなく、問題になっているなど、一部の人間による私物化が起こっている。PTA内(和田中保護者部会)でも矛盾が噴出しており、今後内部からの自浄努力に期待したい、などの報告があった。

2人の小学校教員から、3年前に採択された教科書について、「算数」が極めて使いにくい教科書であることが、具体的に指摘され、教員が集計した「アンケート」によってもそのことが明らかにされ、いかに教員の声が無視した教科書採択が行われていたかが浮き彫りにされた。教科書採択を教師の手に取り戻すための運動が必要である。

この採択制度そのものの問題を考えながら、「来年にはぜひ「つくる会」教科書の撤回を求めてゆきたい。来年(2009年)の採択は、『形だけ』となり、新学習指導要領に即した、新教科書の採択が2010年におこなわれるであろうことが言われています。しかし来年の採択を『形だけのもの』としたとき、『右より過ぎて採択がとれない』と、扶桑社自身が欠陥教科書であることを認めている教科書を、さらにあと2年、つまり、1学年2,000人×2学年=4000人の子どもたちが使われることとなります。みんなで力を合わせてやめさせるようにしましょう。」と、来年の「つくる会」教科書採択の撤回への呼びかけでしめくくった。

**最後に、韓国アジア平和と歴史教育連帯・撮影担当の朴 貞淑さんからあいさつがあった。**

(日本語で自己紹介しました。彼女は韓国の記録映画団体[Docu・希望]代表として「韓国スミダの女性労働者の戦い」を映画化するために来日中です)

## 7、閉会の言葉

これからオピニオンリーダーとして杉並の教育が全国に波及するかと思うと心配だが、仲間を増やして皆さんともにがんばりましょう。これで閉会とします。